

健康と光線

健康はガンを予防する

どうしてガンにかかるのか、明には程遠いのが実情ですが、多様な要因が複雑にからみあっていることに間違いありません。

その中でガンの原因とされる発ガン物質には、喫煙、塩分や脂肪のとり過ぎ、カビ毒などから各種食品や酸素や光線まで含まれていますので、発ガン物質を完全に避けることは到底不可能ですが、せめてわが国で圧倒的に多い消化器ガンを予防するため、厚生省は食品について毎日三十品目以上を摂り、食品の発ガン性を薄めるように勧めています。

無論、ガン予防のために生きる上で不要な発ガン物質は避ける方がよいことは言うまでもありませんが、むしろ発ガン物質に負けない健康造りを忘れてはなりません。ここで言う健康とは、あらゆる生理機能が連係して最大限に働く状態のことで、ガン予防に欠かせない自然治癒

力の根幹をなすものでなければなりません。そのためには日々光線を浴びる必要があります。

皮膚からとる栄養素

ガン予防に役立つ食品として、一般的には緑黄色野菜や食物繊維や牛乳が推奨されています。しかし昨今、特定の食品に顕著なガン予防効果があるのかのことが言う風潮があり、実際にその食品がたちまち売り切れるということが起きています。これも専門家とされている人が専門用語を駆使して言えば、信じて当たり前かも知れませんが、ガン予防の食事は、特定の食品に片寄ることなく腹六分目から八分目に食べる、という昔から言い伝えられた常識で尽きています。ただしこれで良しとせず、光線を浴びることを付け加えなければなりません。自然の定めは、必須栄養素のビタミンDは食品からではなく、皮膚が光線を食べて作る（生合成する）と決められているからです。

発行所
〒153-0063
東京都目黒区目黒
4-6-18
サナモア光線協会
年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

ところでつい最近まで、人も自然と共生した暮らしを通して無意識のうちに光線を浴びていたはず。それが特にここ十年程前から、光線が健康面で如何に重要かについては無関心としか思えない医学者（主に皮膚科専門医）によつて、光線を浴びると皮膚に悪影響を及ぼし、挙げ句のはてに殆どの日本人が見たこともない皮膚ガンの原因になると脅されたため、光線を浴びることを避ける人もいます。

ガンをどのようにとらえるか —自然と共生して生きる その9—

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

ガンに対する

ビタミンDの作用

近年、世界的に増加傾向が著しい大腸ガンと乳ガンの罹病率は、疫学的調査により日照に恵まれた地域で低く、恵まれない地域で高いことが明らかにされています。日本でも厚生省の調査によつて、大腸ガンで同じ傾向を認めることが明らかにされました。この罹病率の地域差についてあらゆる角度から詳細に研究したガランドは、日照の影響を受けるビタミンDと、関係する生体内のカルシウム分布の恒常性（カルシウムバッドックスの有無）が罹病率に関与していることを疫学的に立証し、日照に恵まれた地域の有利性を報告しています。

数多くの腫瘍細胞で確認されており、ビタミンDがビタミンD受容体を介してガン細胞の増殖を抑制し、正常な細胞に分化することを促進することで、腫瘍抑制効果を示すことが報告されています。これらのことからビタミンDの悪性腫瘍に対する薬剤としての有用性が注目されているほどです。

このビタミンDは光線を浴びさえすれば必要なだけ体内で合成されますので、自然と共生していれば欠乏することはなく、気付かぬうちに健康増進に寄与していたのです。しかるに自然を遠ざけた現今の文明社会では、意識して光線を浴びなければビタミンD欠乏症にかかるようになり、これは乳児の健全な発育を助けるために保護者がわざわざ光線をさせなければならぬことから明らかです。同様に何人も光線浴が必要なのですが、美白という造語に乗せられて光線を避ければ、如何に日照に恵まれた日本に住んでいても、ガンを予防し、ガンに打ち勝つ健康を維持することはできません。

またビタミンDを鍵とすると鍵穴に相当するビタミンD受容体が、乳ガンのガン細胞を始め

真に抗病力に優れた健康は、光線の恵みを受受してこそ得られるのです。今、求められていることは、生命は光線によって生まれ、光線によって生かされている、という原点に戻ることにあります。



「仲よし」

宇都宮義真撮影



尾崎行雄翁の死に学ぶ

明治、大正、昭和に亘って、偉大な政治家であり警世家であった尾崎行雄翁は、翁の死を通して医療についても多くの教訓を残された。第一に診断はいつも正しいとは限らないこと、第二に病気が見付からないことが必ずしも不幸ではないこと、第三に人は寿命で死ぬのであって病気で死ぬというものである。

翁は生来の虚弱で、幾度か死線をさまようような病気をしたため、それまでも名医大家の綿密な診察を度々受けていたが、生前には正確な病名診断は受けられず、死後に解剖して病名が確定した、とのことである。解剖の結果、翁は実に多病の持主であったことが分かったのである。すなわち、

- 直腸癌 直腸壁が穿孔して膀胱まで達する進行癌。
- 胆石症 十数個の胆石。
- 脳水腫。
- 肺結核 左右両肺に病巣。
- 高度の心臓肥大。
- 高度の動脈硬化。
- 腎臓、肝臓に加令に伴う変性。翁がこれほど病気を持ちながら、九十五歳の天寿をまっとう

されるまで、常に現役として第一線で八面六臂の活動をされたことは奇蹟と言っても良いであろう。勿論、翁の場合は特別であって一般に論ずることはできないが、翁のように生命力の旺盛な人は、重病と同居しながら平気で長寿を保ち、天寿をまっとうされるのである。

長命を保つ生命力

もし翁の直腸癌が、十年前、二十年前に見付かっていたら、たまたま、どのような結果になったか知る由もないが、興味のある問題である。手術、化学療法、放射線療法などあらゆる手段を尽くして一命をとりとめたか、数年の寿命であつたか分からないが、いずれにしても出来るだけの手当てを尽くしたと満足するだろう。しかし翁の場合には、たまたま癌が見付からなかったため、癌と同居しながら何等の治療も受けずに九十五歳という長命を保ったのである。翁は癌があっても必ずしも生命に関わらないことを身を以て証明したのであるだろうか。

ところで翁のように病気をあつて程度放任し同居しながら長命を保つ人がある反面、些細な病気でも放任できずに治療に狂奔し、却て短命に終る人もあるこ

癌と寿命

宇都宮 義真

とは現実にはしばしば経験する。無論、病気が見付かるのは幸か不幸かと問われれば、多くの人は幸と答えるだろうが、むやみに病気を恐れ、薬や手術に頼るだけでなく、翁のように日頃から病気に対抗する強靱な生命力と何物にも負けない精神力を維持することも必要である。生命力の旺盛な人は相当の病気があつても長命を保ち得るのであり、生命力の乏しい人は一寸した風邪位の病気ですら一命を失う原因になるのである。

癌の養生法

医学博士と哲学博士の二つの学位を有するアメリカのシェルトン博士は、癌の養生法について次のように述べている。

- 1 精神の安静をはかり、緊張と恐怖を除く。
- 2 休養をとる。
- 3 煙草、菓子、嗜好飲料、性的享楽などの悪習慣を絶つ。
- 4 床上での全身運動を最低でも毎日数分行う。
- 5 新鮮な空気と必ず日光浴をする。
- 6 入浴は短時間にする。
- 7 長期または短期の絶食(断食)か、絶食が不可能な場合は減食をする。
- 8 生食を主とし、煮た物を従として、緑色の野菜と果物を食し、肉、蛋白質、砂糖、澱粉を制限する。
- 9 完全な排便に注意する

これらのアドバイスは癌の養生法としてだけでなく、万病に共通な養生法であるが、見かけは平凡でも実行するのは決して容易ではない。しかしこの中の幾つかでも実行できれば、生命力や精神力の強化につながり、薬や手術だけでは得難い効果が十分に期待できるのである。

「健康と光線」

昭和26年7月25日発行

癌の療法

昭和29年11月5日発行

尾崎行雄翁の死の教訓を要約した。

生活習慣病

—これからの健康像を考える—

東京慈恵会医科大学
内科 科学講座 助手

医学博士

宇都宮 正範

「健康とは、肉体的、精神的および社会的に完全に良い状態にあることであり、単に疾病または、虚弱でないということではない」と世界保健機構(WHO)は、定義しています。言い換えると、健康は、身体および精神的に良好な状態にある個人が、前向きに社会生活を営める状況にあるということである。この様な視点から、社会環境も生活習慣も健康を規定する因子に考えられま

す。つまり、何気ない毎日の習慣により、健康が大きく左右される場合があるという、公衆衛生審議会は、平成8年末に「生活習慣病」という、疾病の一次予防を重視した耳慣れない行政用語を造りました。

これまで、「成人病」という疾病の二次予防、すなわち早期発見、早期治療を主体とした概念が、世間一般に広く普及、浸透し、生命保険に加入する際の謳文句にも使用されてきました。しかし、今後、来るべき超高齢化社会に対応するためには、疾病の二次予防では間に合わない現実を直面しているのです。昭和31年当時「成人病」という行政用語を用いた理由は、心疾患(狭心症や心筋梗塞)、脳血管疾患(脳梗塞や脳出血)、悪性新生物を三大成人病として大々的に取り上げ、集団検診を進め、早期発見・早期治療を柱とし、健康増進をはかることにありました。この試みが一応の成果をあげたことも事実ですが、反面「成人病」は、加齢という避けることのできない要因で、年齢に応じて増加する疾患群であると考えられ、個人の疾病予防への意欲がそがれるという状況を生み出したのです。そこで、「生活習慣病」という概念は、個人個人が生活習慣を改善する一次予防により、積極的に疾病の発症、進行を予防するという立場から生まれました。疾病の二次予防(例えば高血圧に対し降圧薬を投与し、脳血管障害を予防する)や三次予防(発病後にその進行を抑制し、機能の回復をはかる)が、現代社会では医師を主体に行われているのに、一次予防は健康人を対象

とするので、その主役は栄養士、保健婦などの生活指導者となります。もちろん、光線療法も一次予防から三次予防まで広く有用であることは言うまでもなく、一翼を担うものです。

しかしながら、「生活習慣病」という概念を造り、病気を個人の自覚が足りないからだという個人にせよにするのは行き過ぎである」といった反論も聞かれます。確かに、病気には、生活習慣要因に関係なく、自分の努力では解決できない原因もあります。これには、遺伝的要因や、病原体、ストレス、事故などの外部環境要因があります。実は「生活習慣病」といっても、40%は遺伝の影響を受けるとも言われており、病気になるのは、すべてが個人の責任と考えてはいけません。そこには、必ず、本人の努力を越えた複数の要因があるわけで、つまり、それが病気の本質なわけです。

それでは、実際、「生活習慣病」をどのように捉え、個人個人は何をしたら良いのでしょうか。「生活習慣病」は、食習慣、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が、その発症および進行に関与する疾患群であると定義されています。具体的には、三大成人病である心疾患、脳血管疾患、悪性新生物の他に、糖尿病、高血圧、高脂血症(家族性を除く)、高尿酸血症、大腸癌、肺気腫、アルコール性肝障害などが含まれます。もちろん、先ほど述べましたように、これらの疾患においても遺伝的要因は大きく関与しており、悪い生活習慣のみが原因で発症するわけではありません。生活習慣改善の内容については、ベロクが、7つの健康習慣の重要性を指摘しました。(1)適正な睡眠時間の確保(7〜8時間)。(2)禁煙(3)適正な体重の維持(標準体重)。(4)飲酒節制。(5)定期的な運動。(6)朝食摂取。(7)間食禁止。さらに、これらの生活習慣の実行数が少ないグループでは、死亡率の上昇や健康度の低下を認めること、また、運動習慣、禁煙、適正体重、適正飲酒、適正睡眠時間により、死亡の相対危険率が有意に低下することが、現在までに報告されています。また、個々の生活習慣について

も、これまでに多くの研究が行われていて、喫煙は、健康にとって最も有害な生活習慣であることは知られており、飲酒においても、適正量を越えた飲酒の有害性は明らかです。食習慣や運動習慣についても多くの研究が行われており、それらの研究成果をもとに各種の指針が出されています。米国内臓協会の大規模臨床試験では、同協会の定める食事を栄養士が指導したところ、肥満の改善、血圧低下、コレステロール低下、耐糖能異常の改善の他、日常活動度の著しい改善をみたことを指摘しました。食事は、必要不可欠な毎日の生活行動であり、日本人の食生活の欧米化も含めて、今後は、若年者を中心としたインスタント食品の過剰な摂取も、健康に影響をおよぼす可能性があり

現代人の多くは、今、自分が置かれている生活環境が、健康には良くないと感じているのではないかと思います。一度、のんびりと自分の生活習慣、健康に関して考えてみて下さい。そして、改善できることは、一つでも改善する努力を試みてはいかがでしょうか。もちろん、健康には、適度な日光浴も必要ですから、是非、光線療法を健康増進にお役立て下さい。一人一人が健康であること、健康を維持するためにすべきことを考え、実行することが、将来の健康像のあるべき姿ではないでしょうか。

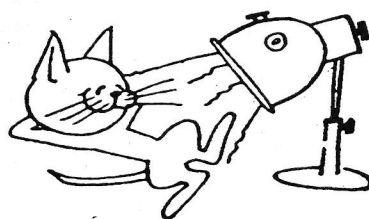
(栃東光線療法研究所非常勤取締役)

☆大動脈瘤

症例 74歳 女性

症状 六、七年前から胃潰瘍を患い、胃腸専門の医院で月に一回胃カメラと超音波の検査を受けていた。昨年十二月に超音波の画像診断で、腹部左側に長さ2cmの大動脈瘤ができていたといわれ青くなる。4cm以上なら手術を勧めるが、出来ている場所もよいので、今後定期的に検査して様子を見ようということになる。

症例の婦人は二十年程前からサナモアを愛用しており、これまでに自分自身の膀胱ポリープや亡き御主人の前立腺肥大を治癒させた経験を持っていたが、今回の病名には大きな不安を覚え、早速、光線療法について相談に来所した。



— 治 験 例 報 告 —

療法経過 BDカーボンで、腹10分・20分、集光器を使用して左腹部20分、ABカーボンで足裏10分、膝10分、一日一、二回の照射を指示した。

今年の一月と二月に超音波検査を受けたが、二回とも大動脈瘤は前と同じで変化ないと診断され、光線の効果がでないのかといささか落胆したが、光線照射は懸命に続けた。七月になって周囲の勧めもあり、本人も大動脈瘤の手術となれば総合病院がよいと考え、勧められた労災病院を受診した。CTによる検査を受け、二週間後に検査の結果を聞くため緊張気味で病院に行った。「不思議だけど大動脈瘤は消失していますよ。おかしいな。」という医師の言葉を聞いた瞬間、頭の中がぼーっと

☆コイン型肺癌？

症例 61歳 女性 会社員

症状 平成8年11月13日に関節リウマチの治療で来所したが、直後の健康診断で右肺に境界鮮明なコイン型陰影(銭型陰影)が見つかり、11月27日のCT検査で右肺中葉に直径1cm、厚さ5mmの腫瘍があり、コイン型肺癌と診断され、手術を勧められた。患者は手術を断り光線治療を希望したので、病院で検査を受けることを約束して治療を開

り、安堵感と嬉しさが込み上げてきた。この気持ちを少しでも早く上野先生に伝えたいと、病院を出たその足でわざわざ迂回して来所し、これまでの報告とサナモアへの感謝の気持ちを語ってくれた。なおこの数ヶ月は食欲も十分にあり、快食快眠で体調は極めて良いので、これからもう怠らず光線照射を続けると色艶の良い顔をほころばせて話していた。

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL078-1331-1358

☆五十肩

症例 58歳 男性

症状 サナモア愛用者の息子さんが来所し、右肩の五十肩で

始した。

療法経過 BDとABカーボンで四灯照射した。側臥位で右胸部に前後から30分、肛門、顔、喉(集光器)に各10分、腰30分、膝、膝裏、後頭部、腹、足裏に各10分照射し、次に仰臥位で左右から胸部に20分、左右から腰に10分照射した。また夜は自宅です右肺に3時間照射するように指示した。

平成9年に入りリウマチ反応は陽性だが症状は出なくなった。3月の検査で肺所見は変わらず

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアA、B、C、Dと効果が同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています)

東京光線療法研究所

夜眠れない程痛みがひどく、何をしても治らないので光線療法を勧められたが、どのように照射すれば良いか質問された。

療法経過 光線療法は初めてというので、ABカーボンで右肩

転移もないと言われ、それから手術を勧められなくなった。春頃には顔色は良く少し太ってきた。その後も三ヶ月に一回は病院の検査を受けているが、特に変わったこともなく経過し、ますます元気になったので、今年から当院の治療は月に一回程度として後は自宅治療にした。なお病院では陰影が石灰化したと診断されたそうである。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL044-721-5067

関節の前後と側面、肘、手首、脇の下、前後、肩甲骨、首筋に各20分・30分位全開で照射し、加えて基本照射部位を各15分位照射するように指示した。

一週間程して電話があり、四一五時間位は眠れるようになったが、痛みで目が覚めるようになったので、もっと良くなるにはカーボンの組み合わせを変えるのはどうかと問い合わせた。それで痛みがひどい時はB、Bカーボンで照射し、その後にB、CまたはB、Dで痛みが止まるまで時間に関係なく照射し、痛みが止まってからも更に20分位照射するように指示した。それから一ヶ月位で熟睡できるようになり、二ヶ月で完治した。

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子氏報告

TEL092-581-1203
五七二-1537

サナモアとの

縁に感謝

川崎市 朝枝 高子様

私とサナモアの出会いは、亡夫の母が神戸の姉のところで闘病していた昭和39年にサナモアで治療した時です。その後、母が川崎の私の家

サナモア

愛用者だより

に移り住むにあたり、サナモア8号器を購入しましたが、母は昭和41年3月に亡くなりました。その後には闘病中にサナモア7号器を購入して使いましたが、夫も昭和53年1月に亡くなり、それから私は私が常時使わせて頂いております。

私がお医者様の世話になるようになったのは、昭和57年7月に婦人科で子宮摘出手術を受けた頃からです。婦人科には平成3年7月にも入院して抗ガン剤の点滴治療を受け、平成5年4月

にも入院して放射線治療を受けましたが、平成10年4月の婦人科の検査では全く異常なしです。また平成元年1月には糖尿病と診断されました。その時の血糖値は五七〇位あったと思います

が、食事療法をするので通院にして下さいとお願いして、数冊の本を購入し、はかりと本と首っ引きで食事療法と光線療法をしました。その結果、三カ月ほどで血糖値は三〇〇代まで下がったように思います。2年位前には血糖値は一八〇位まで下がりましたが、日が経つにつれて気遣いに疲れて油断したため、この頃の血糖値は二六〇になっていました。なお眼科で3年位前に糖尿病性網膜症と診断されましたが、現在まで症状は安定しています。この間の薬は飲み薬のみです。外には平成3年1月に腰が痛くて整形外科の診察を受けた際に骨粗鬆症と言われ、注射を30本受けました。それから平成9年秋までに4回回注射を受けています。

私は平成10年6月13日で70歳になります。4月に受けた内科の検査では、心臓、肺、肝臓、腎臓、コレステロールなど異常

はないと言われました。体力はだいぶ落ちましたが、毎日を一応元気に過ごしているのはサナモア光線療法のお蔭のように思うのです。サナモアはつい最近までA、Bを組み合せ、後頭部、背、腰、腹、膝、足裏、眼に当てていましたが、4月1日付けの協会誌で糖尿病の治療にA、B、Dを使って改善した記事を読み、現在A、B、Dを使っています。サナモアとの縁をつないでくれた亡き夫の亡母に、そしてサナモアに感謝したい気持ちです。

C型肝炎の

インターフェロン療法

の副作用を防ぐ

山口県豊浦郡 水田 孝様

主人がC型肝炎と診断され、インターフェロン療法を受けることになりました。医師からインターフェロンを投与すると、高熱、頭痛、白血球の減少、血小板の減少、筋肉痛、尿蛋白などの副作用があると言われましたので、投与されて帰宅すると直ぐに光線を掛け続けました。お蔭様で高熱は一度も出ず、その他の副作用も全くなく、六カ

月間投与致しました。仕事も休まず、今は月に一度検査に行っておりませんが、全く異常はありません。お酒も飲んでおります。病院の医師達が経過の良さに吃驚しておられます。本当に有り難うございました。

サナモアを

愛用して25年

熊本県荒尾市 徳永良隆・和子様

サナモアを愛用して25年になります。知人からサナモア治療器を借りて使ったのがきっかけです。

5年程前、足を捻挫して病院に行き治療を受けましたが、痛みがとれず腫れも引きません。そのためかと思うサナモアを掛けましたら、痛みがとれたのはびっくりしました。主人も背中、ニキビ大の出来物に膿がたまり、サナモアで治療したら再発しないので驚いていました。昨年、腰が痛くなり、毎日サナモアの世話になりましたが、一週間位で痛まなくなりました。また膝も痛くなりますが、先日送って頂いた「健康と光線」を読みまして、A、C、Cで二、

人工透析に併用

横浜市 相澤 博子様

三日照射すると、びっくりするほど痛みはなくなりました。今では身体のおちこちに少しでも痛みがあると、サナモアを照射しております。子供達にもサナモアを買い与えましたが、Cカーボンを多く使っているようです。私どもも年をとった今こそサナモアの世話になる機会が多くなり、手放せなくなりました。これからサナモアと一緒に、サナモアに助けられ、いつまでも元気で、一日でも長生きするように頑張りたいと思っています。今後とも相談に乗って頂けるようによりしくお願い致します。

人工透析歴三年になります。

不眠のため就寝前に、腹、腰、足、膝、うなじ等に一時間程光線をかけると効果がありません。光線をかけると、この夏の暑さで流れるように汗をかき、特にうなじからの発汗が多いように思います。これも光線の効果が出ているのかと感じています。汗が出るとその水分を摂取できますので、とて

(五ページからつづく)
も感謝しています。

アレルギー性の

喘息が治まる

横浜市 西岡三子様

十余年、アレルギー性の喘息で日夜苦しんでいました。そんな折りに知人の紹介で光線療法を始めました。最初は半信半疑でしたが、お蔭様で今ではすっかり良くなり、病院の薬も夜一錠飲むだけで全くセキが出なくなりました。本当に夢のようなです。夜も良く眠れ、これまでのセキがどこへ行ってしまったのか、不思議でたまりません。感謝の気持ちで一杯です。でもまだもう一つの悩みがあります。鼻が悪く臭いがわかりません。耳鼻科の先生は、一生良くなるはないと言っていますが、この光線療法で何とか治したいと頑張っています。よき御指導をお願い致します。

皮膚病が治る

福岡市 清水 在子様

数年前から背中(主に上部)にコーヒー色のあざのようなし

みが出始め、そこが風呂に入ったり温めたりするとはっきり赤くなり、時にはかゆみもひどく、かくと周辺に広がるという状態でした。それでA B、B Dで毎日10分ずつ、患部、腹、足の裏と当てていましたら、三ヶ月程でほとんど皮がむけだし、かゆみも全くなくなり、今ではあとかたもなく消えてしまいました。皮膚科へは行かずにサナモアで治って本当に良かったと思っています。なおウィルス性かもしれないので、治った今も当て続けています。

背骨の骨折からの

快復に感謝

鹿児島県国分市 野崎 盛重様

妻が背骨の骨折(第三腰椎)で整形外科病院に三ヶ月余り入院加療したが、退院後、歩行も出来ず神経痛で苦しんでいた。そ

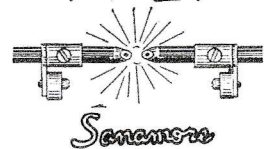
んな折に堂園義信先生(堂園療術院)の御世話でサナモアを購入し、加療約三ヶ月の現在、先ず悩んでいた痛みが薄らぎ、歩行にも杖を必要としないまでに快復し、毎日昼夜の二回の治療に喜んで専念しているところである。サナモア光線療法の偉大な効果にびっくり感謝している。

サナモアは日課

川越市 大塚ユキ江様

歯科医をしていた主人の兄が一年余りの病気で床ずれになってしまいました。兄は患者さんのために毎日サナモアをかけ、すっかり良くなったのを見て、光線療法の素晴らしさを知りました。爾来十二年間、サナモア光線のごやっかいになって居ります。毎朝六時から、足裏、腰、腹、膝と一時間、サナモアをかけるのが私の永い間の日課になりました。お蔭様で七十四歳になります。毎日元気で美容師として働いて居り、健康で居られることに感謝して居ります。妹にもサナモアを買ってやり、毎日かけさせて居ます。妹も膝の痛みが良くなり、姉妹ともども喜んで居ります。

サナモア



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くしてはならない紫外線や赤外線を目的に、適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 3793-5281
(03) 3712-5322

(本紙の無断転用を禁止します。)